

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-5-1 道路網の整備と維持管理

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 道路維持課長 山崎 泰助 電話番号 0852-22-5187

事務事業の名称	路面等維持修繕事業	
目的	(1) 対象	道路利用者
	(2) 意図	道路を安全で快適に利用できる状態に維持する
事業概要	道路を安全で快適に利用できる状態を維持するため、 ・舗装の打ち替え等の整備やポットホール等の小規模修繕や ・橋梁等の道路施設の老朽化対策、 ・除草その他、交通機能を確保するための維持修繕を行う。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	道路管理水準（MCI3、5）達成率	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	水準以上の道路延長／総道路延長	目標値	94.00	93.10	94.00	
			実績値	94.00	93.10	94.00	94.00		
			達成率		101.20	102.20	102.20		%
指標名	式・定義		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	8,453,963	8,931,773
うち一般財源 (千円)	3,988,956	3,954,940

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

島根県が管理する道路延長3,027kmに対し、舗装路面維持管理指数（MCI）3.5以上の延長は2,833kmであり、延長比94%の道路で目指す管理水準を確保した。
 橋梁等の老朽化対策については、初回点検の実施率がH26末で道路橋99%、トンネル99%、シェッド・大型カルバート58%、横断歩道橋75%、門型標識等100%、緊急輸送道路上の法面構造物100%、その他道路付属物100%となった。
 橋梁、トンネル、道路法面、門型標識を含む道路付属物について、修繕計画を立て計画的に老朽化対策を実施している。
 その他交通機能を確保するための道路維持修繕については、計画的に実施している除草作業その他、交通機能の確保に支障をきたす変状等について、道路パトロール、道の相談ダイヤル、市町村からの情報等を基に適宜対応を実施している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

平成26年度の成果

- 舗装の打ち替え等の整備を促進した。
 整備延長 43km
- 道路施設の定期点検を促進した。
 道路橋 162橋
 トンネル 37本
 シェッド・大型カルバート 17基
 法面 381箇所
- 道路施設の老朽化対策を促進した。
 道路橋 93橋
 トンネル 31本
 門型標識 1基
 法面 17箇所
 その他付属施設 516基

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
 施設の老朽化対策の必要性がクローズアップされるなか、道路施設の効率的な老朽化対策の実施が求められている。
- ②困っている状況が発生している「原因」
 確実に進む道路施設の老朽化に対応するためには、今後多くの予算が必要であるが、老朽化対策を含め毎年維持修繕に充てる予算には限界があること。
 老朽化の進行は施設ごとに様々であり、より効果的な対策を行うための、施設の状態の見極めや、適切な時期に最も効果的な対策をたてる知識と経験が不足していること。
- ③原因を解消するための「課題」
 老朽化に充てる予算を確保するためには、効率的な老朽化対策を行うことはもとより、舗装をはじめとする維持管理水準の見直し等を行い、維持修繕にかかる予算のスリム化を検討していく必要がある。
 効率的な老朽化対策を行うためには、的確な健全度の診断や、対策時期、対策工法を判断する職員の技術力向上が必要。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

舗装整備について、新たな補修基準を設け、交通量にメリハリをつけた水準で路面の管理を行っていく。橋梁について、地域の実情に合った定期点検要領を策定するとともに、効果的な修繕時期や工法を見極め、効率的な修繕工事を着実に進めていく。そのためには、老朽化対策を推進するリーダーの育成を図り、メンテナンスサイクルが確実に回るよう出先機関の体制づくりも合わせて進めていく。
 また、当面はこれまで提供してきたサービス水準を確保しつつ、投資効果の分析を進め、今後のサービス水準の見直しを検討していく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）